

県外派遣報告書

栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	第71回関東高校女子バスケットボール選手権大会	開催地	千葉県船橋市
報告者名 (所属連盟)	山崎雅洋・武井晋平 (クラブ)	派遣期間	平成 29年 6月 9日 ~ 11日
参加者 (所属都県)	(本部)渡邊 整・久保裕紀 (敬称略) (指名)小坂井郁子・石鍋光智代		
	茨城:川満有紀・坂 美佑紀・山崎律子 神奈川:大庭英裕・廣瀬俊昭・佐々木寛子 東京:嶋崎 貴・本間さとみ・伊佐牧子 栃木:山崎雅洋・渡邊諭・武井晋平 千葉県内審判員の皆さん	群馬:星野由貴・佐藤弘之・穂川苑子 埼玉:小柳幸子・北島寛臣・藤林比登美 山梨:河野 仁・丸山 淳・日向美奈	

【審判会議内容】

- ・関東ブロック長挨拶 渡邊 整ブロック長より
- ・派遣審判員紹介 上記参加者の通り

・審判会議講義

講師:指名審判員 石鍋光智代氏

はじめに、石鍋氏よりS級になるまでの経験についてお話をいただきました。
S級になるにあたって、あきらめずに挑戦し続けてきたことが、結果につながったこと。
仕事等が大変でも、それを乗り越えてS級になれたことは、自分の人生のなかでも大きなものになった。
多くの人の支えに感謝しているので、そういった意味でも今度はコートで恩返しをしていきたいと語られた。

講師:指名審判員 小坂井郁子氏

続いて、指名の小坂井さんから、「ガイドライン」についての講義が行われた。
「2017-2018 JBAプレイコーリング・ガイドライン」に沿って、一つ一つ確認を行った。

1. 悪い手・腕・肘の整理

ハンドチェックなど、手を使うものやポストでの腕の使い方など、きちんと整理する
ディフェンスだけではなく、オフェンスの手の使い方にも注意が必要である。

2. スクリーンプレイ

「リーガル・スクリーン」とは、①スクリーナーが止まっていて、②両足が床についた状態で、③シリンダー内で身体の触れ合いが起こるプレイのこと。

⇒上記の約束をよく確認、当てはめ、イリーガルなスクリーンについては取り上げる。

2人で協力して判定していかなければならない。

3. アンスポーツマンライクファウル

⇒ボールカットでターンオーバーが起こった際にボールをコントロールしているのか、していないのかよく確認をしなければならない。コントロールがなくて触れ合いが起きた場合は、パーソナルファウルとして取り上げる。

4. フェイク

⇒新たに加わったシグナルなので、よく立ちなさいとか、起き上がりなさいといったときに両手で似たような動作をする審判員がいるが、フェイクと間違えやすいので、やらないようにする。

オフェンスもディフェンスもやられたように見せかけるような動作があった場合にはしっかりと判定できるように確認する。

講師:渡邊整ブロック長

「2POの確認事項について」

渡邊ブロック長からは、2POについてのトレイル・リードの位置取りや判定についてのお話をいただいた。

- ・正しい姿勢でプレイを捉えて判定をする
- ・プライマリーの意識⇒自分なのか、相手レフリーなのか、しっかり意識していく。
- ・クロスステップの活用⇒ドライブとは逆の方向に動く

- ・女子のゲームは、面が変わっていくので、動きに合わせて対応していく必要がある。
- ・セットアップポジション→クローズダウン→ローテーション 特にボールの展開に合わせてクローズダウンを使う。
- ・ドライブに関して、リードは受けに行くのではなく広がって判定をする。

【感想・県内審判員へ伝えたいこと】

今回は、1泊審判として参加させていただきました。審判会議のレクチャーにもあったように、ガイドラインに沿った判定を意識して試合に臨みました。女子は面が変わることが多いので、より細かい動きや確認が必要だと、改めて感じました。マニュアルをきちんと身につけて、それを試合に適應できるよう、もう一度振り返り今後に生かしていきたいと思いました。

また、今回は2日目にグループミーティングが行われました。私が、主任としてグループの進行役を務め、他県のB級1泊審判員の皆さんとゲームを観ていきました。渡邊ブロック長には担当講師として、グループミーティングの総括をいただき、大変充実した1試合となりました。グループミーティングではこれまでの見学とは違い他の1泊審判員の皆さんと一緒にゲームを観ながら、最後にみんなで意見を出していくことは非常に勉強になりました。積極的に参加することで情報の共有や判定についての様々な意見や考え方が情報交換できたことも、いままでには無い大切な経験となりました。ぜひ地元の講習会でもこうしたグループミーティングを取り入れ積極的に参加していくことにより、様々な考え方や情報を得ることができると感じました。



↑ → グループミーティングの様子



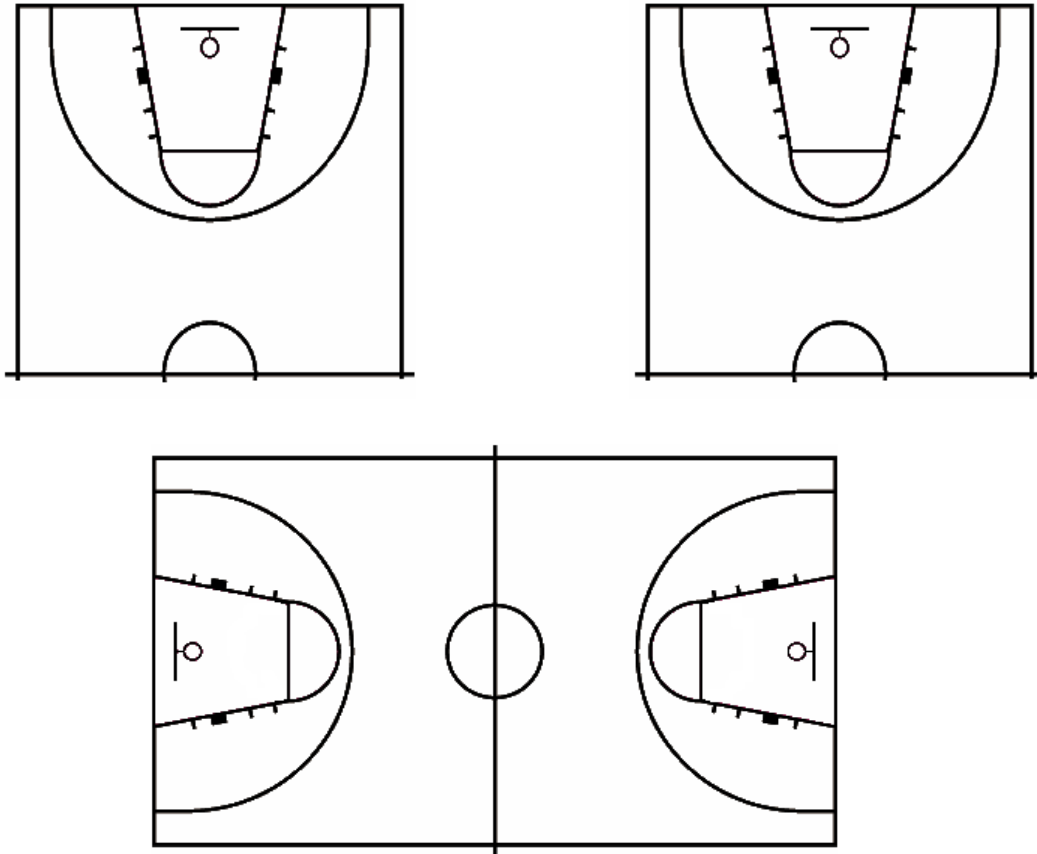
今回の関東大会で得たことを次につなげられるよう、一つ一つ再確認していこうと思います。また、栃木県内で普段教えられていることを、県内の皆さんも自信をもって取り組んでほしいと改めて感じました。県内で教えていただいていること一つ一つが、こうした大きな大会で生きてくるのだと思いました。最後に今回の派遣にあたり、渡邊整ブロック長、渡邊諭県審判長をはじめ、栃木県内の皆様の様々なご配慮、地元千葉県の皆様には3日間大変お世話になりました。心より感謝を申し上げます。(武井晋平)

県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成 29年 6月 10日

審判員名	武井 晋平	相手審判	(主 副) 石鍋光智代 氏	所属 指名
カード	埼玉栄	対	千葉経済大附属	

◇ ケース・ポジションについて



◇ ミーティングの内容

- ・全体的には2人で協力していて良かった。
- ・長身の選手のところ、特にポストのところでのポジション争いで、腕を使っているケースなど、笛を入れて整理してもいいものがある。瞬間的に起きているので、瞬時に判定しないと、逆を取り上げてしまうことになる。見極めが必要。
- ・リバウンドのファウルについて、取り上げてほしいものがある。
- ・ハンドチェックの整理
- ・自分のエリアから始まっているプレイの判定、トレイル側からのドライブに対して積極的に。